

平成 2 8 年度第 1 4 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 8 年 1 2 月 1 4 日（水）	午前 9 時
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第14回定例会議事日程

- 1 日 時 平成28年12月14日(水)午前9時
2 場 所 八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室

3 会議に付すべき事件

- 第1 第48号議案 八王子市教育委員会委員の辞職の同意について
第2 第49号議案 高齢者叙勲候補者の推薦について
第3 第50号議案 八王子市指定文化財の指定の諮問について

4 報告事項

- ・八王子市小中学校合同作品展第12回「おおるり展」の開催について (指導課)
- ・平成28年度八王子市立小・中学校の学力の状況について (指導課)
- ・第2回中学生ミーティングの開催について (指導課)
- ・上柚木公園テニスコートの整備について (スポーツ施設管理課)
- ・平成28年度八王子「宇宙の学校」の実施結果について(こども科学館)
- ・平成28年度八王子市包括外部監査の意見及び指摘について(図書館部)

その他

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	星 山 麻 木
委 員	輿 水 かおり
委 員	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩千子

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也

教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	小 俣 勇 人
学 校 複 合 施 設 整 備 課 長	内 野 茂 樹
施 設 管 理 課 長	松 土 和 広
保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由 美 子
指 導 課 長	中 村 東 洋 治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	斉 藤 郁 央
生涯学習スポーツ部長兼	
国際スポーツ大会推進室長	小 柳 悟
生涯学習政策課長	瀬 尾 和 子
スポーツ振興課長	坂 口 崇 文
スポーツ施設管理課長	佐 藤 晴 久
学習支援課長	新 井 雅 人
文化財課長	中 正 由 紀
こども科学館長	叶 清
国際スポーツ大会推進室主幹	宮 木 高 一
図書館部長	伊 比 洋 司
中央図書館長	中 村 照 雄
生涯学習センター図書館長	新 堀 信 晃
南大沢図書館長	村 田 浩 三
川口図書館長	福 田 秀 之
指導課指導主事	上 野 和 広
指導課主査	金 子 江 理 子
指導課指導主事	日 向 義 裕
指導課指導主事	高 木 紘 二 郎
指導課指導主事	加 藤 則 之

指 導 課 指 導 主 事	星 野 正 人
文 化 財 課 主 査	金 子 征 史
中 央 図 書 館 主 査	佐 藤 朋 子
教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 総 務 課 主 事	廣 瀬 桃 子
教 育 総 務 課 主 事	小 山 ち は る
教 育 総 務 課 嘱 託 員	古 瀬 村 温 美

【午前9時00分開会】

安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は5名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより平成28年度第14回定例会を開会いたします。

本市では地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会においても、照明の一部消灯を実施いたしておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

本日の議事録署名委員の指名をいたします。本日の議事録署名委員は、村松直和委員を指名いたします。よろしくをお願いいたします。

さて、本日の議事でございますが、第49号議案については、審議内容が個人情報に及ぶため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により非公開といたしたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

日程第1、第48号議案 八王子市教育委員会委員の辞職の同意についてを議題に供します。なお、本案は輿水委員の一身上に関する案件でございます。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第6項の規定により、本人は会議に出席することができませんので、本案の審議中、御退席をお願いいたします。

〔輿水委員退席〕

安間教育長 それでは、本案について教育総務課から説明願います。

小林教育総務課長 それでは、第48号議案につきまして御説明申し上げます。本年12月1日付で輿水委員から八王子市長に対し、一身上の都合により、平成28年12月31日をもって辞職したい旨の届け出がございました。委員の辞職につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第10条の規定により、教育委員会の同意が必要となりますので、これについてお諮りするものでございます。説明は以上です。

安間教育長 ただいま教育総務課の説明は終わりました。

本案について御質疑はございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御質疑はないようであります。

本案について御意見はございませんか。

村松委員 学徳という言葉がございませう。江戸時代、寺子屋という武士や僧侶が学業を子どもたちに教えるというところでした。学業というのは誰でも学ぶことができるのですが、日々の学習の中で徳も一緒に教え、その徳も育むことを教えなければ、本当の意味で学問は身につかないのだということを、後進の指導者に教えていたというふうに聞いています。輿水委員は長い教員生活の中、後進の指導もたくさんしてきてくださった方で、まさに学徳を実践されてきた方なのだなと思います。

私は1年、御一緒させていただきましたけれども、これからは大きなフィールドで八王子の教職員、子どもたち、また教育委員会を教え導いてくださるというふうに信じておりますので、本当に至極残念なのですが、私は今回の辞職に同意させていただいて、拍手でお送りさせていただきたいなと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。ほかにございませうか。

星山委員 個人的には、とても残念だなと思ひますし、村松委員がおっしゃったように、お人柄も意欲もとてもすばらしくて、私もとても勉強になったと思ひます。いろいろな教育に関してのかかわり方があると思ひますので、一身上の都合ということで先生の御意思を尊重したい、させていただければというふうに思ひますけれども、教育委員会としてはとても損失というか、とても残念だなという気持ちはありますが、これから、また違う形で八王子の子どもたちの力になっていただければいいというふうに感じております。

柴田委員 私も、とても残念に思っております。女性の先輩としても尊敬しておりました。ただ、輿水委員は八王子市民でいらっしやいますので、引き続き市民というお立場から、また教育の執権者として、こちらのほうにいろいろアドバイスやお力を添えていただければと願っております。

安間教育長 ほかに御意見もないようでございますので、お諮りをいたします。

ただいま議題となっております第48号議案については、提案のとおり同意することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

よって、第48号議案については、そのように同意することにいたしました。

ただいまの議決結果を市長へ通知することといたします。

議案の審議は終了いたしましたので、輿水委員の入室を求めます。

〔輿水委員入室〕

安間教育長 それでは、議事を進行いたします。

なお、第48号議案、八王子市教育委員会委員の辞職の同意については、提案のとおり同意いたしましたので、輿水委員にお知らせいたします。

安間教育長 それでは、続きまして日程第3、第50号議案 八王子市指定文化財の指定の諮問についてを議題に供します。

本件について、文化財課から説明を願います。

中正文化財課長 それでは、第50号議案、八王子市指定文化財の指定の諮問についてでございます。これは、八王子市文化財保護条例第44条の規定に基づきまして、八王子市文化財保護審議会に2件の八王子市指定有形文化財の指定の諮問をいたしたいと思います。詳細につきましては、文化財課の金子主査より説明いたします。

金子文化財課主査 文化財課の案件につきまして御説明させていただきます。

ページを1枚おめくりください。新たに文化財として指定する望ましいものとして、1番、御嶽神社の天然理心流の奉納額でございます。写真は、次のページでございます。場所は下恩方町の1268番地、御嶽神社でございます。宗教法人のほうでお持ちになっております。指定の基準としましては有形文化財、歴史資料でございます。江戸時代に、多摩地域で盛んでありました剣術の天然理心流の門下生が、これをつくって奉納したと考えられております。多分、御嶽神社のところで奉納試合等をいたしまして、その後、こういうことをしたということでやったものでございます。増田蔵六という千人同心、天然理心流の高弟、つまり有能なお弟子さんだったのですが、その方と門下生で奉納をしております。

続きまして、第2、大野家の千人同心関係文書でございます。大野家というのは千人同心の荻原家の家つきの家臣のようなものでした。その荻原家は明治維新後、

徳川家に従いまして静岡のほうへ移住いたします。そのときに荻原家から大野家のほうに移った文書がございます。それが12点でございます。武田家の滅亡から徳川家康の配下となり、千人頭として八王子へ入り、土地所領を安堵されまして、明治維新を迎えるまでの古文書12点から成っております。大変両方とも貴重なものがございます。所有者は個人でございます。やはり指定基準としましては八王子指定文化財、有形文化財、それから古文書でございます。

説明は以上でございます。

安間教育長　　ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

村松委員　　今回指定をした後、これは郷土資料館ですとか、そういうどこかで展示をすることはあるのでしょうか。

金子文化財課主査　　所有者の方と相談をしまして、展示なりを検討したいと考えております。

安間教育長　　ほかに御質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　それでは、本件についての御意見はございませんか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　それでは、御意見もないようでありますので、お諮りをいたします。

ただいま議題となっております第50号議案については、提案のとおり決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　　御異議ないものと認めます。

よって、第50号議案については、そのように決定することにいたしました。

続いて報告事項となります。

指導課から3件、報告願います。

中村指導課長　　平成28年度、八王子市立小中学校合同作品展第12回「おおるり展」の開催につきまして、御報告いたします。

詳細につきましては、担当の金子主査から報告いたします。

金子指導課主査 平成28年度、第12回「おおるり展」につきまして、配付しております資料に従って御説明させていただきます。

初めに、1の作品展の目的ですが、(1) 児童・生徒の作品の発表を通して豊かな心情を培い、創造的な能力の向上を図る。(2) 小学校・中学校が合同で作品展を行うことにより、広く市民に鑑賞の機会を設け、小・中学校9年間を見通した教育活動についての理解・協力を求めること、としています。

次に、2の主催ですが、八王子市教育委員会、八王子市公立小学校長会、八王子市立中学校長会でございます。

3の会場ですが、今年度はエスフォルタアリーナ八王子1階の多目的室及び会議室を使って行います。

開催日時は、平成29年1月26日木曜日から、30日月曜日、午前10時から午後8時、最終日は午後3時30分までとさせていただきます。

4の出品校は、小学校70校、中学校38校で、これは昨年度と変わりございません。なお、今年度も八王子市小学校PTA連合会、中学校PTA連合会の方々に受け付けやアンケート回収について御協力をいただきます。また、広く市民の方にお知らせするために、全市立小・中学校、公共施設、市内の商店街にポスター掲示を依頼し、ホームページ、庁内放送でのお知らせや市民課、八王子駅南口総合事務所、南大沢事務所の3カ所に設置しております行政情報モニターでの周知、また八王子駅北口駅前設置してあります情報版での周知に努めているところでございます。教育委員の皆様にも御来場いただき、御感想をお聞かせいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

報告は以上です。

安間教育長 ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

星山委員 もしもおわかりになれば結構なのですが、前回なされたときに課題として挙げられていたことが、もし何か、ここは配慮したというようなことがあれば教えていただきたいのですが、場所とか時間とかの何か経緯的なことがありましたら教えていただければありがたいです。

金子指導課主査 前は学園都市センターで行っておりまして、場所が変わるので

けれども、その前年、一昨年はエスフォルタアリーナ八王子を使用しておりまして、場所が多少狭いこと、通路の確保が困難だったことを受けまして、今年度は前回の多目的室に加え会議室を借りまして、少しゆったりとした状況で開催をさせていただく予定です。

安間教育長　ほかにございますか。

村松委員　確か昨年もお聞きしたと思うのですが、これからはエスフォルタアリーナ八王子で「おおるり展」を開催するということをお聞きしていまして、来年市制100周年ということで、エスフォルタアリーナ八王子もいろいろなイベントが入ってくる中で、日程の確保ができているのかなというところを心配しているところなのですが、いかがでしょう。

あと1点、このポスターのデザインというのは、どなたがされたのですか。

金子指導課主査　来年度につきましても、同じくエスフォルタアリーナ八王子を予定しております。

ポスターのデザインにつきましては、実行委員会の学校の先生方、図工部ですとか美術部の先生方をお願いをしてデザインをしていただいております。

安間教育長　ぜひ、子どもにとか、そういうお話ではないのですか。

村松委員　確か「おおるり展」もそうなのですが、子どもたちに表紙の絵を描いていただいたりとかポスターを書いていただいたりとか、とても見やすいポスターなので、これはこれでとても好きなのですが、子どもたちに何か案を考えてもらったり、子どもたちのための合同作品展ですので、何かそういうことで校長会の皆さんで、また、こちらのほうでも考えていただければなというふうに思っているのですが、今年は、これでいくのですよね。

安間教育長　それを振ったというのは、私も同じ意見を持っているということなので。

何かありますか。

金子指導課主査　今後検討させていただきます。

安間教育長　お願いします。

ほかにございましょうか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　我々も時間を見て、展覧会に参加できるように配慮してまいりましょう。

では、報告として承っておきます。

続いて、指導課から報告をお願いします。

斉藤統括指導主事　それでは、平成28年度八王子市立小・中学校の学力の状況について報告いたします。

詳細につきましては、担当の加藤指導主事から説明いたします。

加藤指導主事　平成28年度に実施された全国学力・学習状況調査、東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査、八王子市学力定着度調査の三つの学力調査の結果をもとに分析した本市の学力の状況について報告いたします。

初めに、本報告は児童・生徒の学力の基礎・基本の定着を目指し、八王子市の児童・生徒の学力を保証する観点から、全ての児童・生徒が教科書の例題レベルの問題を確実に解くことを目標とし、本調査を分析したものです。そのため、今回の資料は3つの学力調査の習得目標値の達成状況についてまとめております。なお、習得目標値とは、東京都が設定している教科書の例題レベルの問題をもとに、市独自に設定した基礎・基本の定着を確認するための問題の正答数になります。

具体的に、どのような問題を習得目標の問題としているかを御確認いただきます。添付しております平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査、小学校第5学年、算数調査票をご覧ください。問題の左側に記載しました黒い丸の問題は、東京都が教科書の例題レベルとして設定した習得目標の問題です。小学校5年生の算数においては、全部で8問ございます。一方、白い丸の問題は、八王子市として独自に設定をした習得目標の問題です。八王子市の全ての小学校5年生に正答してほしいと考えた習得目標の問題であり、全部で13問ございます。このように、小学校4年生から中学校3年生までの学力調査問題を確認し、八王子市独自の習得目標値を設定いたしました。

それでは、分析結果を御説明いたします。平成28年度八王子市立小・中学校の学力の状況についての1枚目の資料をご覧ください。資料の左にあります1、経年による習得目標値未達の児童・生徒の推移につきましては、平成24年度から平成28年度までの全国、東京都、八王子市の小学校4年生から中学校3年生までで実施された学力調査の国語と算数・数学において、習得目標値に達していない市全体における各学年の児童・生徒の人数と、その割合を表したものです。表を横に見て

いただきますと、同一児童・生徒の推移を確認することができます。なお、平成23年度につきましては、八王子市学力定着度調査を実施しておりません。

国語の一番上の数値は、今年度の中学校3年生の推移となっております。中学校3年生が小学校5年生であった平成24年度から順に見ていきますと、習得目標値未満の児童・生徒数は平成25年度で1,107人と一度増加しますが、平成26年度から299人、201人、174人と、平成28年度まで連続で減少しております。また、左下の算数・数学においても、一番上の数値である今年度の中学校3年生の推移を平成24年度から見ていきますと、平成26年度には1,580人と一度増加しておりますが、その後は1,104人、483人と減少していることがわかります。

成果と課題につきましては、資料の右側をご覧ください。成果につきましては、国語、算数・数学のいずれの教科においても学年が進むに従って、習得目標値未満の児童・生徒の割合に減少傾向が見られます。これは、各学校が児童・生徒一人一人に個別の指導を行い、習熟の程度に応じた丁寧な指導の推進を図っただけでなく、中学校入学前の春季休業中に漢字の書き取りや算数の計算問題等の課題を課し、入学後に確認テストを行うなど、小中一貫教育の取り組みが推進されてきていることも成果であると考えられます。また、全国学力・学習状況調査の児童・生徒の質問紙において、「先生はわかるまで教えてくれる」と回答した児童・生徒は、いずれの教科においても正答数が多いことがわかりました。

3枚目の資料2、算数・数学についてまとめたものをご覧ください。こちらの右側の真ん中付近をご覧ください。アシスタントティーチャーを配置したB小学校では、「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについてわかるまで教えてくれる」と回答した児童の割合が92.9%であることがわかりました。また、B小学校の算数における習得目標値未満の児童数については、平成27年度の26人から平成28年度の7人と減少しています。B小学校においては、児童の実態に応じてアシスタントティーチャーの効果的な活用が図られていることがわかります。なお、左側のグラフや右下の表につきましては、算数・数学の習得目標値未満の割合と、平均正答率となっております。

続きまして、2枚目の資料1、国語についてまとめたものをご覧ください。資料

の右側にありますように、学校司書を配置したA中学校の例では、「読書が好き」と回答した生徒の割合が、平成27年度の67.8%から平成28年度の77.8%と増加していることがわかりました。A中学校の国語における習得目標値未満の生徒数は、平成27年度の9人から平成28年度の2人と減少しており、学校司書を活用したことにより読書を好きな生徒が増え、読む力が少しずつ育ってきていると考えられます。グラフや右下の表につきましては、国語の習得目標値未満の割合と平均正答率となっております。

算数・数学だけでなく国語についても、全国や東京都に比べ習得目標値未満の児童・生徒の割合は本市においてはいまだ高く、習得目標値未満の児童・生徒を減らしていくことが今後の課題です。

それでは、1枚目の資料をご覧ください。資料の右下にございます3の今後の方向性をご覧ください。次の5点について、取り組んでまいりたいと考えております。

1点目は、教員の授業力の向上です。教員一人一人の授業改善に向けた教員研修を行い、児童・生徒が主体的、対話的な学習に取り組む指導の充実を図るとともに、指導主事の学校訪問により、教員の実態や課題を把握し、具体的な指導・助言を行います。

2点目は、小中一貫教育の充実です。小中学校教員による意見交換や中学校の教員による小学校への授業の実施、家庭学習の取組の充実を図っていきます。

3点目は、八王子学力定着度調査の改善と充実です。具体的には、A問題を東京ベーシックドリルの類似問題から出題し、児童・生徒の基礎・基本の定着度を把握することのできる調査に改善します。

4点目は、八王子市版ベーシックドリルの作成です。現在、市立小・中学校の校長、副校長、教員によって構成される小中一貫教育学力向上施策推進委員会の国語部会と算数・数学部会において、文章の解釈に関する問題と分数に関する問題を作成しているところです。この基礎・基本の問題により、児童・生徒の学力向上を図ります。

最後5点目は、個に応じた指導の充実です。アシスタントティーチャーを活用し、少人数学級集団による指導を充実させ、きめ細やかな指導の充実を図っていきます。

私からの報告は以上です。

安間教育長 ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑、この場合は御意見もひっくるめてございませんか。

まず1枚目なのですが、国語の今年の中学2年生の推移、24年度から人が増えて、増えて、平成27年度のところも増えているのに矢印がここだけは逆向きですよね、国語の2段目、現在の中学校2年生の矢印だけのことなのですが、平成24年度が250人、25年度が290人で増えていて、26年度が415人から27年度の423人だから、ここも増えていたのですね。

御意見、御質疑とセットでいただきます。

輿水委員 今の国語ですけれども、小学校6年生のところ、全国の学力状況調査における結果ということでお出しいただいていると解釈いたしますが、見方がちょっとわからない。この小学校6年生時の22.9%とか8.8%とかというパーセントは、八王子独自に規定した定着を確認する問題の正答数で見ているということですか。つまり全国の出された問題を八王子独自で、これは絶対にクリアしてほしいというところで見たと結果、それをクリアしていない子どもが、これだけいたよと考えればいいわけですか。

日向指導課指導主事 輿水委員の言われるように、八王子市の独自の子どもたちを問題から抽出した値でございます。

安間教育長 今年の結果だけ見たら、資料1の右下の表がございますよね、その裏面の。小学6年生というところを見ると、全国の調査で、その習得目標値の未満の割合が全国は15.2%、東京都は13.9%、八王子市は17.8%、やはり全国よりは多くなっている、そういうことですよ。

輿水委員 比較対象とした数字なのですか、そうではなくて、八王子独自で規定した絶対値といいますか、それを、ここに表わしているのだというふうに理解したのですけど、そうではなくてということですか。

高木指導課指導主事 御説明いたします。具体的に申しますと、資料1の、まず小学校6年生、平成28年度の棒グラフのところをご覧くださいと思います。803人、17.8%、15分の8問と書かれているところです。これは全体の問題数が15問中、八王子市独自に8問は子どもたちに絶対解いてほしいという問題を設定したということです。そうして見たときに、八王子市全体の中で17.8%の子

どもたちが、この問題を解くことができなかったという数字になります。

安間教育長 8問に達していなかったと。

高木指導課指導主事 そうです。8問に達していなかった、7問以下の子どもたちということになります。

右下にあります平成28年度学力調査における国、東京都、八王子市の習得目標値未達の割合と平均正答数というのは、その8問に達していない子どもたちというのが全国ではどれぐらいいたか、東京都ではどれぐらいいたか、八王子市ではどれぐらいいたかということで、例えば小学校6年生を見ますと、全国では15.2%が7問以下しか解けなかった。八王子市は、先ほどと同じになりますけれども17.8%の子たちが解けなかったということになります。

輿水委員 了解いたしました。

ということは、全国の学力・学習状況調査の、いわゆるA問題を分析し、さらに、そのA問題の中から貴重だというところをセレクトして、それが東京都と、それから全国でどうだったかということ、ここに数値化したと、そういうふうに理解すればよろしいわけですね。

高木指導課指導主事 そのとおりでございます。

輿水委員 わかりました。

公立の学校ということを考えますと、底辺の底上げというのはすごく大事なことで、二極化しつつあると言われる学力について、できない子どもたち、絶対基礎・基本をやらしてもらわなければいけないと思われる問題が解けない子どもたちをどうするかというところに視点を置かれた、経年変化も含めた非常に細かい調査・分析だというふうに思います。大変だったろうというふうに感じるところです。

さまざまに、これに対する対策はあろうかというふうに思いますけれども、今御報告があったというのは、1つには一人ひとり、きめ細かく見るということが大事だよということ、もう1つはマンパワー、人を配することが大事だよというのが結果として出たということですが、例えばこれから後、ベーシックドリルについては一人ひとりに応じたものをつくる努力として承りましたけれども、例えばアシスタントティーチャーの増員であるとか、または学校図書館司書の増員であるとか、そこら辺についてはどうお考えになっているのかということをお伺いしたいと思いま

す。

齊藤統括指導主事　　今の御指摘いただいたところについては、指導課も検討しているところでございます、具体的には数年計画でアシスタントティーチャーの増員というようなことを計画しております。

また学校司書につきましては、今年度全校配置ということになっております。今まで全校配置ができていなかったために、配置する学校が年度ごとに変わっていることが多く、児童・生徒のことを理解しないまま次の年になり、また新しい司書が来るというようなことになっておりましたが、全校配置を来年度継続するというところで、同一の学校司書を配置することにより、児童・生徒や教員のことやわかった中で、さらに学校図書館の活用を進めるような形で継承してまいりたいと考えております。

輿水委員　　私も学校訪問に伺って、そういう悩みと申しますか学校側が、できれば同じ人をというふうな願いを持っているのを把握しております。ぜひ、その方向で、まさに、この調査が経年的、継続的であると同じように、担当している人も継続的に配置する中での新たな結果というのを期待するところです。これがまず1目点です。

2点目です。今回の調査については下位について、どうしても絶対というところについての必然、必要というところでの調査だったことは十分理解できますし、このことをもとにして、ぜひ予算獲得にも生かしていただけたらということで、具体的な調査・研究だったということの評価したいと思います。

一方で、今言われているのは、やはり上位の子どもをどうするかということも、すごく大きいのではないかというふうに思います。公立の使命として、一人も残さずというのはとても大事なことで、それをずっと推し進めてきましたけれども、その一方で、特異な才能を持っている、例えば、算数はすごくできるとか国語ちょっとだめだとか、また逆に読みはすごいけれども、という子もいると思うのです。そういうところをどういうふうに伸ばしていくかという新しい視点というの、これからは必要なのかなというふうな思いもいたします。

今すぐ、どうということはないですが、そういう意味で視点をもうちょっと広げて、次の段階に進んでいただければいいのかなというふうに思います。

齊藤統括指導主事　　今の私の説明の中で、アシスタントティーチャーの増員についてお話をさせていただきましたが、この増員のうち一部につきましては、学力の上位の学校に配置しようと考えています。その中で発展的な課題、もしくは児童・生徒の興味・関心に応じた課題に対応できるような支援のあり方というのをも検証してまいりたいと思いますので、そのあたり、委員のお話しいただいたことを、こちらの施策にも反映してまいりたいと考えております。

加藤指導主事　　習得目標値未達の児童・生徒への指導だけではなく、発展的な学習が必要な児童・生徒への指導も大変重要であると考えております。算数・数学に関しては、習熟度別指導を行っているところでございまして、学校訪問をした際に、その発展的な学習がどれだけ子どもたちにできているかというのを指導主事のほうでもきちんと把握をして、指導・助言してまいりたいと考えております。

また、教育研修や校内研究で学校を訪問した際に、アクティブラーニングの授業、主体的で対話的な学習、そういう授業形態をきちんと指導してまいりたいと考えております。

安間教育長　　ほかにございましょうか。

星山委員　　まず、実態を理解するということで、こういう分析の方法は初めてなされたと思うのですが、意図として、私はとてもすばらしいと思います。わかりにくい部分はあったのですが、なさろうとしていることの意図はとてもよく理解できたので、平均だけで比べるのではなくて、ある層の子どもたちをちゃんと着目し、そこの変化を追おうとしているというところはすごく良く理解できました。そこは手間暇かかったのではないのかなと思いますけれども、輿水委員がおっしゃったように、実態がわからないと手の打ちようがないので、いいのではないのかなと思いました。

これがわかったというのは、八王子は頑張っているのだが、それをほかのところと比べてしまうと、まだまだという部分もあるのだなというところまでわかったと。そうすると、これからどういうふうにしていくかなというところで、方針はいろいろ出していただいたのですが、今主に出していただいた、まずアシスタントティーチャーを初めとする、いわゆる担任の先生、教科の先生以外の人材の活用というところの方向性も、私はとてもいいなと思います。

ただ、アシスタントティーチャーだけに頼るのも限界が来るかなと思いますし、私の感じでは教員免許を持っている、しかしながら、それを活用していない地域の方って結構いらっしゃるように思いますし、八王子の人材の高さを生かすのだとすれば、最終的にはもちろん正規の教員がすべき仕事とは思いますが、しかし、本当にわからないところまで教える人がいるというのはとても大事なことだと思うのです。授業を拝見していても、何ページを開いて、今何をすべきかでつまづいている子はたくさんいて、そこは学力以前と言ったらあれですが、どっちかというところと準備のところとかというのは、もっと地域の人材を活用してお手伝いいただけるかなというふうにも思いますし、加えて教員免許を持っていらっしゃるけれども、力になりたい方も上手に活用していただいて、地域全体でチーム学校として八王子の子どもの学力保証していくのだという方向性にもっていくというのはとても大事ななというふうに思いました。これが1点目です。

2点目なのですが、私は海外の学校をたくさん見ているのですけれども、学力保証するには結局個別だと思うのです。できる子はできる子なりに、それからもう一歩の子はもう一歩なりに。そうすると、こうやって分析しても個から個への指導の成果ってすごく見えにくいのです。結局のところ、アクティブラーニングをするためにも個人、A君ならA君、B子さんならB子さんの変化を追わなければいけないので、ここからは、本当の意味では個別の指導計画、教育支援計画という話になるのですけれども、これから何年か後のことを考えていくと、その子の頑張りとか、その子の、ここができたというファイルであるとか資料というのを本人にも返していく、担当の教員、それからスーパーバイズしてくださる指導主事の先生方も、そういうところも見られるようになってくると、すごく成果が上がるのではないかなと。諸外国はそういうふうに行っているのです。集団で、ただ同じことをやって何となく平均点が上がったというやり方ではなく、Aさん、B子さんに、ちゃんと着目して、その子の変化を追えるようなシステムが、これからすごく大事ななというふうに思いました。

3点目は、大人に頼るだけではなくて、子ども同士の学び合いと支え合いという方向性、学力を向上させるというのは、すごく大事だと思います。輿水先生がおっしゃったように、できる子は自分の学力を上げるだけではなくて、ほかの子どもた

ちのために、どうやってその力を使っていくかということも学んで大切なことだし、またできない子は、できる子に聞けないという、そういう不安ではなくて、わからないことをちゃんと質問できる、隣の子でも先生でも助けてと言えるという、そういう土壌をつくるのが学び合いにつながるんじゃないかと思うのです。そこはもうちょっと頑張れるなと思っていて、先生と大人だけではなくて、子どもたち同士、わからないところがあったら学び合って助け合っていくのだよ、八王子ではという、そういう力を使っていったら、もう少しみんなで取り組む方向性にもっていけるかなというふうに感じております。

輿水委員 おっしゃったとおり、教え合う形と申しますか、これはアクティブラーニングの学習形態の1つで、協働学習であったりディスカッションであったりすると思うのです。できる、できないでというだけではなくて、教え合うというのはものすごく効果があると。ましてや質問に対して答えようと思う、また、わからないと言ってくれたことに対して答えようと思うことで、わかっているはずのことが実はわかっていなかったということにも気付く。つまり、そういう子ども同士の教え合う場をつくるというのが、授業改善の大きなポイントだと思うのです。ただ単に話し合うだけではなくて、目的をもって、視点を明らかにした教え合い、または伝え合い、それをやっていかなければ、ただ話し合いなさい、話し合う時間を取りなさいという授業改善は実がならないと思います。おっしゃったとおりで、教え合うということがすごく大事だというふうに思うのが1点。

もう1点は、中身に入っていったので、実は八王子市版のベーシックドリルの作成のところで、国語科、文章の解釈に関する問題というふうにあります。確かに久方の学力調査の中で、いわゆる読解ではなくて情報の取り出し、または解釈というのは大事だというのは言われてきていますが、下位の子どもと申しますか、基本的に底を上げるためには、ここではないような気がしています。これから新しく学習指導要領が出てきますけれども、その中でもやはり言葉による見方、考え方というのが国語科はすごく大きくなってきますから、言ってみれば主語はどこなのだとか、これの述語は何なのだという言語に関するものをやらなければ伸びないと私は思っています。ここにある文章の解釈に関する問題、もうプロジェクトが組まれて進んでいるのだらうと思いますし、これは、これですごく大事です。

だけれども、下位の子どもを視点といいますか、ターゲットにするならば、やはり言葉による見方、考え方、それは言語に関する知識であり理解であり技能であり、あそこの部分をしっかりやらなければ空回りしてしまうし、そのときは、たまたま当たったけどというふうな学力になってしまう恐れがあると思います。そのことはほかの教科にも汎化します。ぜひ、このベーシックドリルの中身について、また少し御検討いただいて、本当の意味での言語力を付けていただきたいなと思います。

柴田委員 調査の内容を拝見しまして、小学校4年生から同一児童の学力の推移をきめ細やかに経年調査によって見ているというところで、大変個に即したケアがなされているというふうに感じました。

私は、ほかの委員さん方がおっしゃったことに加えまして、特に学校司書の方の活躍に、これから期待したいと思っています。今年から学校司書の配置数を増やしたというようなこともあって、これから結果が来年以降見えてくることを楽しみにしていますけれども、読書をするということは国語だけではなくて、さまざまな興味・関心というところを伸ばしていくために、例えば文学とか自然・科学の分野であるとか、授業とはちょっとかけ離れたところから、また学問を見ていくというような、そういうような教科の横断的な視点で、学校司書の方は教師とは違った視点で、学問に対して子どもに接していくというようなところ、興味・関心というところを伸ばす。特に、勉強と遠ざかっているような子たちに、こんなに面白いのだよということを伝える。上位の子たちには、もっと深めると面白いということが発見できる、ひらめきがあるのだよというようなワクワク感というようなところを、学校司書が支えてくれれば大変うれしいと思います。

それから、教師についてですが、「先生はわかるまで教えてくれる」というふうに回答したところの学校の生徒・児童さんの正答数が多いという結果が出ています。ですので、教師の多忙化ということが現在叫ばれていますけれども、部活動とかさまざまな仕事が増えている中で、やはり授業をしっかりとできるという環境、余暇の時間などにも教材開発とか授業の準備とか、一人ひとりの児童・生徒の状況の把握というところをしっかりと教師ができるという環境づくりということも、必要なのではないかというふうに思います。

村松委員 柴田委員がおっしゃったように、教員の多忙化ということもあって、アシ

スタントティーチャーとか今回司書を全校で支援してくださっているというのは、PTAや学校のほうでもありがたいなというふうに思っているはずです。

また、それが結果に結びついてきているということは、どんどん取り組んでいていただきたい問題なのですが、逆を返せば、このアシスタントティーチャーと学校司書さんがいらっしゃらなければ、ではどうなのだということなのです。秋田県は学力1位で、個別指導ですとか、とても学力が伸びているという傾向にもありますけれども、教員の皆さんはパワーアップ研修ですとか、さまざまな授業改善や経験値を上げるために勉強なさったりすると思うのですが、重要だと思うのは、教員授業力向上の2点目の指導主事の学校訪問により教員の実態や課題を把握し、改善すべき点について具体的な指導・助言を行う。ここだと思えます。教員の皆さんも一生懸命頑張っている中で、やはり教職員の多忙感や、また苦しいところとか授業がやっても欠けているところとか、いろいろなところを補ってあげられるのは指導主事さんたちだと思うのです。八王子の学力の状況を上げていけるのは、私は指導主事さんたちの指導の方向性や、そういういろいろな観察力にかかっていると思いますので、激励の意味を込めてなのですが、これだけ数字を集めるのは大変だったと思うのですが、指導主事さんたちがしっかり見て、子どもたちの学力を伸ばしていくのは自分たちなのだという意識を持って、学校訪問をしていていただきたいなと思っております。

安間教育長　さまざまな御意見をいただきましたので反映できるところ、またベシックドリルに関しては具体的なアイデアをいただきましたから、今から直せるところは、ぜひ着手をしてください。

全国との比較のお話も出ましたが、少なくとも小学校のときは若干多かったけれども、中学校を卒業する義務教育が終わるところまでには、その習熟度未満の子を何とか踏ん張って高めていく一方で、八王子の頑張りだということは指摘させていただいて、報告として承っておきます。

それでは、続きまして3番目の報告を指導課からお願いいたします。

佐藤統括指導主事　PTA連合会主催第2回中学生ミーティングが、平成29年1月21日、土曜日、午後2時より教育センターの大会議室で開催されます。内容について、星野指導主事より御説明いたします。

星野指導課指導主事　それでは、中学生ミーティングについて御説明いたします。昨年度実施されました第1回中学生ミーティングは、保護者代表と中学生代表が携帯電話やスマートフォンの効果的な使い方について意見交換を行いました。このPTAの取り組みを踏まえ、指導課では各家庭で保護者と子どもが携帯電話やスマートフォンの利用について話し合うことができるリーフレットや資料等を作成し、市内全小・中学校の全家庭に配付をいたしました。このリーフレット等を活用し、各家庭ではSNS利用にかかわるルールを作っております。

第2回中学生ミーティングについてですが、これらの状況について保護者代表と中学生代表が意見交換し、さらに今回は小学生の代表も参加する予定でございます。第2回中学生ミーティングのお知らせということで、委員の皆様にも資料として配付してあります。委員の皆様もお時間がございましたら、ぜひ御参加いただきますよう、よろしくお願ひします。

報告は以上でございます。

安間教育長　ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

村松委員　前回、第1回目の中学生ミーティング、とても良かったので、ぜひ次回もというふうに早々に決めていただいて、ありがとうございます。

今回、小学生も参加ということなのですが、小学生の割合的には、どんな感じで参加していただくことを考えていらっしゃるのですか。

星野指導課指導主事　市内の2校の代表の子どもたちに、人数のところは今調整している段階ですけれども、2つの学校の生徒に参加していただく予定にしております。

村松委員　大人と中学生と、この間も意見交換でかなり白熱した部分があるので、小学生ですと、それにのまれてしまって、なかなか意見ができないこともあると思うので、特に小学生に配慮して、参加していただけるような形で配慮をしていただきたいと思います。

前回と同じように、これは中学生、保護者も、前は10人ずつぐらいで意見交換したと思うのですけれども、今回も、そういう形なのですか。

星野指導課指導主事　この後、来週の月曜日に中学生、中学校のPTA等の打ち合わせという時間もありますので、昨年的人数、詳細については、そこで聞いてこよう

と思うのですが、基本的には前年と同じ人数でというふうにとらえております。

安間教育長　ほかに御質疑はございませんか。

輿水委員　これは報告資料ということで、こうなっていますが、これは各中学校の生徒宛てに配るという資料というかお知らせなのですか、誰宛てのものか良く分からない。

佐藤統括指導主事　こちらの資料は、各PTAから各学校のPTAのほうに配付されるものとなります。

輿水委員　ということは、保護者宛ての資料ということですね。皆さんの声を聞かせてほしいと思っていますという「皆さん」というのは、保護者の声を聞かせてほしいということでしょうか。

佐藤統括指導主事　この文章については、子どもと大人両方になります。

輿水委員　誰宛てのものなのかなというので、中の文章は生徒宛てだろうと思って読んだのですけれども、直接生徒に呼びかけているのかなというふうな気がして拝読いたしました。保護者であるならば保護者に、保護者向けのものの内容、これを考えてきてくださいということがいるのではないかというのが1点です。

もう1点です。昨年ですか、八王子だけではなくて都全体の中学校PTA連合会の主催で、八王子北野のコミュニティセンターを会場とした講演会がありました。精神科の先生がいらっしゃって、非常に衝撃的な内容だったと思います。これは大変だと、私も見ていて思ったのですけれども、そういう本当に具体的な身近と言いますか、大変な状況がある意味懸念されるということ、しっかりと事前に、集まってくる前に研修といいますか、子どもたちに知らせておくような下ごしらえというか、各学校でおやりになっていると思いますが、それがあって、集まってやらないと、同じところを行ったり来たり、次に深まるというか、そういうところになかなか難しいかな、せっかくのミーティング、大事な時間、子どもが参加することですので、何かしら、そういう前回とは違った掘り起こしというのがあればいいなと。または第3回目は、ぜひ、そういった形での掘り起こしも御検討いただきたいなと思います。

安間教育長　ほかに、御意見もひっくるめてございますか。

星山委員　試みとしてとてもいいなと思います。スマホとか、それからSNSに関し

ての教育委員会としての社会教育としてのあり方ということに関しては、また別のところでも議論が必要かなと思います。

というのは子どもたちのほうが、前にも話したと思うのですが、よほど良く知っていて、私たちは時代遅れといったら失礼ですが、自分もそうで、あまり使っていないから分からない部分もありますが、それは保護者の方、それから子ども自身、それから先生にも、便利さと恐ろしさの認識というのは浸透するように考えていけないといけないのではないかなと。前、金山委員がよくおっしゃっていたかなと思いますが、私も本当に、そう思います。

1つは、試みとしてとてもいいと思うのですが、実際には一人ひとりの子どもが気軽に使っていますが、大人から見てあり得ないという使い方をしている子どもさん、いらっしゃると思います。例えば個人情報勝手に載せてしまったり、撮った写真を全部挙げてしまったりということが、小学生・中学生から見て、どういう意味を持つのかって非常に分かりにくいですし、大人で初めて理解できることが、子どもたちにどうやったら理解してもらえるかということに関して、一人でも多くの方に見ていただきたいなと思いますし、正しい知識ではありませんが、確か親が忙しければ忙しいほど、スマホを使う率が高い。つまり、この時間帯に来る親というのは非常に、こういうことに関心が高い親であるが、本当に心配な使い方している子どもさんの親御さんに、どうやったら届くかなというようなことも、真剣に考えていかなければいけないのではないかなというふうに思いました。

安間教育長 よろしゅうございますか。

それでは、ただいまいただいた御意見をもとに、今年度の改善できるところは改善する、また来年度に向けての課題とするところは課題とするようにしていただきたいと思います。それでは、報告として承っておきます。

続きまして、スポーツ施設管理課から報告をお願いします。

佐藤スポーツ施設管理課長 それでは、上柚木公園テニスコートの整備について御報告申し上げます。

まず、報告の趣旨でございますが、今年度全面改修を進めております上柚木公園テニスコートの整備が完了し、1月からリニューアル後の貸し出し予約が始まるので、今回報告するものでございます。

整備の概要ですが、今年11月21日から来年2月28日までの予定でテニスコート8面の人工芝全面張り替え工事を行っております。2月末で工事を完了して、3月1日から使用開始予定でございます。申し込みの予約は、開始2カ月前からインターネットでの申し込みになりますので、1月1日のお正月からになります。

リニューアルオープンにつきましては、1月1日発行の「広報はちおうじ」にて周知をいたします。なお、使用料につきましては、12月28日付で八王子市都市公園条例施行規則を一部改正しまして、使用料を八王子市都市公園条例第7条第1項に定める1面1回1,500円に改めるものになります。改正後の規則は、3月1日施行予定でございます。

報告は以上でございます。

安間教育長 　　ただいま報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 　　それでは、本件も報告として承っておきます。

続きまして、こども科学館から報告をお願いします。

叶こども科学館長 　　それでは、平成28年度八王子「宇宙の学校」の実施結果について御報告申し上げます。お手元の資料をご覧ください。

まず、報告の趣旨ですが、平成28年6月から11月にかけて八王子「宇宙の学校」を開校したことに伴い、その実施結果について報告するものです。

続きまして、本事業の目的ですが、小学校低学年の子どもと保護者を対象に、宇宙や科学をテーマにした、JAXAと協力して行う科学工作教室（スクーリング）と家庭学習を通じて、宇宙や科学に関する興味・関心をさらに高め、理科好きの子どもたちを増やしていくきっかけとするものでございます。

3の主催等でございます。本市を初め、ここに記載されました各実施団体等で構成する実行委員会が主催しまして、スクーリングを実施する認定NPO法人KUMMA、本市と教育支援活動で連携協定を締結するJAXAを初め、市内の都立高校、大学の協力をいただいています。また、東京八王子南ロータリークラブの記念事業として設立されました地域貢献活動を行うシニアの市民団体、東京八王子プロバスケットボールクラブを中心とした後援会と、南大沢に本社を置く株式会社スリーポンド社様に後

援をいただいております。

以上のように、産、学、公、市民団体などの多様な主体の参加・協力を得て行う事業になっています。

4の内容になります。小学校1年生から3年生までの子どもと保護者がボランティアスタッフのサポートを受けながら、ホバークラフト等の科学工作を行う4回のスクーリング、そして「科学や宇宙に親しむ内容の教材による家庭学習」で構成するプログラムを実施しています。参加費として2,000円を頂戴しています。家庭学習は、このような袋に40枚ぐらいのテキストをお渡しして、家庭で学習をしていただけるようになっています。

スクーリングの内容を表にお示ししてございます。講義が中心ではなく、工作や実演・実験を通じて、子どもたちの好奇心や考える力を育てていくプログラムになっています。最後に、家庭学習の成果をレポートにまとめ、グループに分かれて発表していただきます。このスクーリングで重要な役割を担いますが、工作をサポートするボランティアスタッフの存在です。今年度からは市内大学と締結しております包括連携協定を生かして、新たに創価大学様、東京薬科大学様の学生にサポートスタッフとして御登録いただき、従事していただいております。

また、東京工科大学では前年度のボランティア経験者、現在の2年生8名ですが、今年初めてボランティアに参加する1年生、約40名を指導するテクニカルスタッフとして継続参加していただくなど、学内の縦と横のつながりを取り入れるなど、よりきめ細かいサポートができる体制を構築して実施いたしました。

裏面をご覧ください。この「宇宙の学校」では平成23年度に、一会場定員80組で開講して以来、今年度で6回目を迎えております。この間、順次、会場や定員を拡充して実施してまいりました。表に記載しましたとおり、今年度は3会場、定員214組で実施し、応募総数398組、倍率1.84倍のお申し込みをいただきました。平成27年度は2.35倍、26年度は2.14倍で、おおむね2倍程度の倍率で推移しています。全12回の開催を通じて出席率は85.4%となりました。

6のアンケート結果でございます。会場では事業評価及び今後の事業運営に生かしていくため、アンケートを配付しています。153件の回答をいただき、回収率

は71.5%になりました。詳細については現在集計中ですが、取り急ぎ、全体評価と自由記入欄について御報告させていただきます。

記載のとおり、八王子宇宙の学校全体の評価として、「参加して良かったか」という質問については、「とても良かった」「良かった」「ふつう」「良くなかった」の4項目の中で、「とても良かった」と「良かった」を合わせて95.4%の方が「良かった」と御回答いただきました。そのほか、自由記入回答では、「いろいろなことに興味を持ち、実験等を通して自分で結果を導き出すことができる経験となった」、「いろいろなことに対する「なぜ」「何で」という気持ち、好奇心を持つことができた」などの感想や、「親子で参加でき、発見や感動を共有できた」というように、親子のふれあいの場ともなったことがうかがえました。また、そのほかにも、「子どもにとって日ごろ接する機会の少ない世代の方とふれあう良い機会だった」といった御意見もいただいています。お子さんからは「お世話になりました。大学生のお兄さん、お姉さん、ありがとうございました。大学生になったら手伝いに来ます」という直筆のメッセージもいただいています。

感想全体として、「家ではできないような実験、身近なものを使った工作だった」ということ、それから、「これからも家庭学習の資料を活用して、子どもと一緒に自然や理科を学びたい」といった趣旨のものが多く、このことから、本事業の目的はおおむね達成できたものと考えています。

しかし、その一方で、「小学校低学年にとっては大人の説明が長くつまらなかったようだ」「実験がうまくいかないこともあった」などの御意見もいただきました。このようなアンケート結果をしっかりと受けとめ、今後の事業運営に生かしていきたいと考えています。

また、サポートスタッフとしてボランティア参加された学生さんとも意見交換を行っています。その中では、「地域に目を向けるきっかけになった」「今回の参加をきっかけに、地域との交流の場に参加してみようと思う」という御意見もいただいています。

また、このボランティアスタッフの参加者の中には教職課程を専攻する学生さんも多く、御意見を伺うと、「教育実習で子どもたちとのふれあいは経験したが、保護者の方々と接するのは今回初めてだった、大変良い経験になった」という御意見

も寄せられました。学生さんにとっても、御自身の今後の学校生活や進路など良い経験になったものと受けとめています。

最後になりますが、子どもたちの真剣な眼差し、生き生きとした姿をお伝えするため、スクーリングや成果発表の様子を3ページ目以降に写真を多く掲載していますので、御参照いただきたいと思います。

報告は以上です。

安間教育長 報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

柴田委員 大変興味深く今の報告を伺いました。さまざまなネットワークを介した連携授業ということで、学校ではゆっくりとできない実験などを家庭教育・家庭学習というところと絡めて、親子参加でできるという学校外教育の貴重な機会だと思います。

それで1点質問なのですが、2ページ目の1枚目のところに応募総数が398組で倍率が1.84倍とありますが、これは先着順ですか、それとも抽選で決めるのでしょうかということと、もし、ここで漏れた方は、例えば平成29年度に同じような事業をしたときに優先的に申請できるのかとか、そういったところについて、申請の方法について教えていただければと思います。

叶こども科学館長 受講者決定の方法について御質問いただきました。応募は抽選の形式をとっていますが、1年生から3年生までを対象としていますので、前年度の当落の状況なども踏まえて、この3年間で1回は受講できるように配慮をさせていただいています。

安間教育長 ほかにございましょうか。

村松委員 大変盛会で、また写真をたくさん載せていただきました。本当に見やすい報告書だと思います。子どもたちの喜んでいる姿やお父さんが真剣に子どもとともに取り組んでいるという姿が良く分かります。本当にありがとうございました。こういう資料は歓迎であります。

2ページ目の実施結果を拝見しますと、第1回から第4回までどの会場も、工科大だけ推移して同じですけども、減ってきている状況ですよね。学習教材が御家庭に届いて、夏休み中やっってくださいということだと思っておりますけども、やはり7月

10日から11月13日というのは子どもも忘れる期間だと思うのです。また大人のほうも忙しくて、多分11月まで引っ張れないと思うのです。ということは、8月の夏休み期間中のどこかの週で1回、ボランティアさんとの兼ね合いもありますが、やはり夏休みに1回入れて、もう少し期間を10月までにするような取り組みでやっていただいたほうがいいのではないかなと思います。

というのも、柴田委員がおっしゃっていましたが、かなりの応募総数で抽選に漏れた方、本当に行きたかったという人たちもいると思うので、なるべくなら全て出席していただけるよう、昨年、27年度、出席率90%なのですよ、減ったのですね、なるべく全ての会に出席して勉強していただけるような取り組みの工夫をしていただければなと思うのですが、いかがでしょうか。

叶こども科学館長 委員さんから御指摘いただきましたとおり、第2回と第3回、夏休みを挟むところで出席率が落ちる傾向があります。これは昨年も同様でした。夏休み期間中にはリマインドはがきという内容の、後半戦が始まりますということをお伝えするはがきを各家庭に送り、呼びかけをしているところですが、委員に御指摘いただいたように、夏休みの補習のようなことで参加をより促していく仕組みというのにも必要かなと考えています。夏休み期間中は学生さんのボランティアも帰省されていたり、確保が難しい点もありますが、こういった工夫を重ねて、少しでも多くの方に夏休み以降も参加していただきたいなと考えています。

アンケートなどを見ますと、実験や実演はすごく楽しみにしているが、発表が嫌だというお子さんも結構多く、発表が近づくとつれて参加率が下がるということや、9月の後半から10月上旬にかけて天候が不順だった学校行事の関係で出席ができなかったというお子さんもいらっしゃいましたが、学校行事が終わった後、その格好で直接駆けつけてくださった子どもたちもいて、楽しみにしていただいていることが感じられました。今後も工夫していきたいと思います。

村松委員 夏休みに、もし本当に計画するとするならば、先ほどおっしゃったようにボランティアのスタッフの確保ですとか、いろいろなことで大変だと思うのです。また出席する側も、夏休みでお父さん方が土日使って出席するということになる、やはりどこかに旅行に行っていたりすることもあって、逆に出席率が落ちるということもなきにしもあらずだと思いますので、その辺は開講するときに、またいろいろ

るな形で募集するときに、こういうことを考えていますということを知っていて、なるべくならセミが鳴いているときにみんなで汗をかきながら会場に来ていただいて、親子でいい思い出をつくっていただけるのも夏休み期間中だと思いますので、御検討いただければと思います。

安間教育長　ほかにございますか。

星山委員　とてもすばらしかったのだと思います。1つは内容がとてもいいのだと思います。これから学校以外のところ、家庭も巻き込んだ企画というのを考えていかないと、いろいろな世代が見られないですし、小学生と大学生って非常に相性がいいので、そこに家庭の姿が見えて、行政がバックアップしているというのは、ありようとしてとてもすばらしいなと思いました。

今後は、子どもと学校と家庭と地域をどうやって結んでいくのかというときに、ここに登場しない例えば中学生、高校生、それから高齢の方なども、これから図書館であるとか郷土資料館であるとか、いろいろなところで企画をしていくときに、なるべく会わない世代の人たちがいい企画のもとに出会っていくということが、とても求められるのではないかなと感じました。これは方向性としてすてきな企画だったのでないかなと思いました。

輿水委員　さまざまにおっしゃったとおりで、おもしろかったのだらうなというのが写真から伝わってきます。特にお父さん、それから写真を見ますとおじいちゃんも一緒かなというほほ笑ましい状況まで伝わってきました。

これはメディアといいますか広報で投げて、何かしらの反応があったのでしょうか。

叶こども科学館長　プレスリリースをさせていただいたのですが、反応がございませんでした。また提案の方法を考えていきたいと思います。

輿水委員　さまざまな委員がおっしゃったように、いろいろなところがコラボレーションをして、そして子どもたちに科学の目をという意味では、私は非常に面白い企画だと思いますし、メディアに投げるときに、プレスリリースするとき、いかに魅力的なものかということを書いて、八王子の「宇宙の学校」というのが広く知られるようにすること、あまり知られたら応募が多過ぎて大変だということもあるのかもしれませんが、そういう形で、ぜひ広げていただければというのが1点。

2点目です。先ほど大変ほほ笑ましいアンケートがありました。その中に、実験が成功しないというか、いい実験結果が出なかったことに対する失望感が、良い印象を与えなかったというようなことをおっしゃいましたが、これはすごく大事なことだと思うのです。村松委員がスタートの段階でさまざまなプレゼンテーションしてほしいということをおっしゃっていましたが、その一つに、失敗を楽しんでほしいという内容を入れてもらえたらと思うのです。世の中って、ある意味失敗からいろいろなものが生まれている。多くの発明・発見というのは失敗ではないですか、失敗を楽しむという、そういうスタンスも、ぜひ入れていただくといいのかなと思います。

大隅博士がノーベル賞いただかれたときにも同じようなことを言ってらっしゃったかなと思うので、ぜひ科学的な興味・関心、なぜ・何でという好奇心が出るというのはすごく大事。失敗は、なぜ・何でから始まるというような、そういうプレゼンを最初に子どもたちに、そういうメッセージをもっていただけたらと思います。

もう一つ、プレゼンが嫌だから、発表が嫌だからという声があったということ、これは指導課に関係するのかなと思うのですが、小学校の低学年でプレゼンすることの楽しさみたいな方法も含めて、こうやるのだよということを、こういう場にも広げられるような意識的な指導、ぜひやっていただけたらいいなと思います。感想を含めてです。

安間教育長　ほかにございましょうか。

村松委員　7月10日教育センターの会場で教育長も開校式に出席されていることが写真でわかるのですが、輿水委員がおっしゃったように、失敗することを恐れずに、親子でどうして失敗したのかとか、おやじ頑張れよと、子どもに失望させるなよと、お父さん応援していますよということも教育長に、この場で言っていただいで、失敗することも成功することも親子で楽しんでくださいということを開校式のときに言っていただければと思います。

安間教育長　わかりました。今のお話をするようにいたします。

ほかにございましょうか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長　それでは、「宇宙の学校」の件、報告として承っておきます。

続きまして、図書館部から報告をお願いします。

中村中央図書館長 それでは、平成28年度八王子市包括外部監査の意見及び指摘について御報告いたします。

詳細につきましては、中央図書館佐藤主査から御説明申し上げます。

佐藤中央図書館主査 それでは、平成28年度八王子市包括外部監査の意見及び指摘について御説明いたします。平成28年度八王子市包括外部監査の実施については第5回定例会で報告いたしましたが、このたび八王子市包括外部監査人から、次のとおり意見及び指摘が届きました。定例会報告事項資料をごらんください。

今回の外部監査のテーマは、要綱に定めのある業務及び関連する一連の業務執行についてとなっており、図書館部の八王子市図書館資料館外個人貸出しに関する要綱がテーマに該当したことから、外部監査の対象となりました。外部監査人からは、八王子市図書館資料館外個人貸出しに関する要綱について意見と指摘を各一つ受けました。監査人からの意見については、資料の2の(2)のア、要綱での規定が不明確な点についてにありますように、要綱第2条が該当します。

要綱の条文については資料裏面の2をごらんください。図書の館外貸出しを受けるためにつくっていただく利用者カードの登録や更新時に必要な免許証などの確認書類について、在住者、在勤者、在学者、協定を結んだ市町村に居住する方など、対象者ごとに規定していますが、各対象者において必要な確認書類が明示されておらず、何を確認すべきなのかが不明瞭であるとの御意見でした。

次に、指摘をいただいた部分ですが、資料表面に戻っていただいて、資料2の(2)のイ、要綱の見直しについてにありますように、要綱第4条が該当します。資料裏面の1、八王子市図書館条例施行規則及び2の八王子市図書館資料館外個人貸出しに関する要綱第4条貸出し制限を御参照ください。要綱では、利用者が貸出期間経過後1カ月を超えて当該図書館資料を返納しないときは、その者に対して「新たに図書館資料の貸出しを行わない」ことを規定しています。しかし、その上位規定である、八王子市図書館条例施行規則においては、「新たに図書館資料を貸出さないことができる」と規定しており、要綱が、規則を上回る表現になっているとの指摘を受けました。

今後の対応ですが、今回受けた意見については、確認すべき事項を各号に明確に

示してまいりますとともに、指摘を受けた規則と要綱の整合性については、法規担当と調整の上、規則と要綱の整合性がとれるよう整理し、要綱または規則の改正を行う予定です。

報告は以上です。

安間教育長 報告は終わりました。

御質疑はございませんか、よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 それでは、御質疑はないということでございますので、報告として承っておきます。

それでは、ほかに何か報告する事項等はございますか。

廣瀬学校教育部長 ございません。

安間教育長 それでは、これで公開の審議は終わりにになりますが、委員の方から何かございますか。

村松委員 最近インフルエンザやウイルス性の学級閉鎖、または市内でノロが増えていくということで、その辺の情報は何かつかめていらっしゃいますか。

野田保健給食課長 市内のインフルエンザの状況につきましては、委員の皆様にはお手元のほうに八王子市の地図のほうでお示しをさせていただいておりますけれども、11月9日の定例会でお示しました柵田小学校以降、12月5日に松木小学校で5年3組が一クラス、12月12日に第四小学校と大和田小学校で一クラスずつの学級閉鎖が現在出ております。それ以降につきましては、今日時点では、まだ報告がないということになっております。

あと、感染性胃腸炎に関するところでございますが、28年度は11月24日、片倉台小の5年生から嘔吐症状が始まりまして、12月1日から8日までに、全部で4校6学級で感染性胃腸炎による学級閉鎖が発生しているところでございます。感染性胃腸炎に関しましては、発生が出た時点で各学校に対して、どこの学校で胃腸炎が流行っているということで給食関係になりますけれども通知を出させていただきまして、消毒や手洗い・うがい・嘔吐等の対応について通知をしているところでございます。

安間教育長 よろしゅうございますか。

それでは、輿水委員が12月31日をもって教育委員を退任されますので、定例会の出席は本日が最後となります。皆様の前でお話しいただく機会も今回で最後となろうかと思っておりますので、この場をおかりいたしまして、輿水委員から退任の御挨拶をいただきたいと思っております。

輿水委員 皆様、時間をとっていただきありがとうございます。

まず、傍聴にいつも来ていただく市民の方、本当に暑い日も寒い日も、今日のように足元の悪い日も、こうして見守っていただき、それを励みにやってまいりました、ありがとうございました。

また、在任中ですがけれども、短い間でしたがいろいろなことがありました。中核市に移行した、そして新しい教育委員会制度をいち早く導入し、総合教育会議で市長とも親しくお話をすることができたこと、さらに、今年は市制100周年、いろいろな意味で八王子の節目の年に出会うことができたなというふうに思っております。この間、関東甲信越静の市町村の全体会、大きな研修大会も経験いたしました。そういう中で、教育委員会事務局の皆さんの働きぶり、また八王子の文化や歴史について、この市の、この町のすばらしさ、底力を見せていただいた、大変貴重な期間だったというふうに思います。

また、教育長は二人にお仕えするわけですが、教育長、そしてまた仲間になっていただいた教育委員の皆さんの温かく、時に熱く、時には厳しく、さまざまな意味で違う場面から私も勉強させていただきました。

今回、私のライフワークとしております国語科の教育、それと、この職というのを一緒にやるのがなかなか難しい状況になったという段階で、教育長にも相談させていただき、自分とすればライフワークを取らせていただくというわがままを聞き入れていただきました。おりしも新しい学習指導要領が、この3月には文部科学省から告示される予定です。それに伴いまして、私も、残った自分の力を日本の子どもたちの国語科教育に向けて少しでも役に立てたいと。本当は役なんか立たないかもしれませんが、そんな気持ちで次の一步を踏み出したいというふうに思っています。

我が町八王子です。本当にいい町で、離れがたい思いもありますが、違う立場で全面的に応援をしたいと思っております。9月の和田委員の任期満了の辞職ということか

らなりますと、随分教育委員も若返ってまいりまして、若い力を存分に発揮していただきながら、ますますこの市が教育の充実に向けて進んでいっていただけるように応援し、期待もしているところです。

皆さん、本当にありがとうございました。

安間教育長 ありがとうございました。

それでは、各委員から輿水委員に贈る言葉をいただきたいと思います。

星山委員 贈る言葉ということですが、私は、まだ真っ暗なうちに家を出てくるのですが、輿水委員がいらしてから、その足取りが軽くというか非常に前向きに、今日も委員会があるから頑張ろうという気持ちになるのが、とても不思議だなというふうに思いました。と申しますのも、いろいろな課題がありますけれども、御発言内容も非常に鋭く、深く、厳しいものもありますが、しかしながら伺っていますと、何か力が湧いてくるような、問題解決への道筋が見えてくるのではないかなと思うような意欲と、それから何よりも子どもたちに対する愛情の深さといえますか、どんなことをおっしゃっても、そこのところは一番大事なのだなということが、聞いている一人ひとりの心に伝わってくるということが非常に素晴らしい方だなというふうに尊敬申し上げておりました。

理由を伺いまして、先生には先生なりの生き方や、さまざまな形で子どもたちに自分の役割を果たしていこうと思っていらっしゃるという思いも伺いましたので、とても寂しく残念な思いはありますが、また先生御自身、それから子どもたちのため、八王子はまだまだずっと大切にしてくださいと思いますので、今後の御発展と先生の御健康をお祈りして、短い間ではありましたけれども、これからも、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。どうもありがとうございました。

村松委員 短い間で非常に残念なのですが、私が思っていることは先ほど述べさせていただいたことです。

いろいろなことを詳細に教えていただきまして、また今年の1月ですかね、文科省のほうに二人で行って、帰りにとても寒かったので1杯やっついていこうかと誘っていただいたのが嬉しかった思い出になっております。そのときにもいろいろなことを教えていただきまして、これからは輿水先生に倣って成長できるのだという喜びに浸っているさなかに、私を見捨てておやめになってしまうのかなというふうに思

ったのですが。

これからも八王子の教育委員会、また教職員、子どもたち、何よりも私も御指導いただくことをお願いできればなと思っております。本当にありがとうございました。

柴田委員 奥水先生、短い間でしたけれどもお世話になりました。本当にありがとうございます。

私は教育委員に就任してから、まだ2カ月なのですけれども、その前に少し奥水先生とはお仕事を御一緒していただく機会もございまして、とても温かい、本当に面倒見のいい先生という印象をもっておりましたので、こちらに参る際にも、奥水先生がいらっしゃるといことは、私にとってとても大きな安心感につながりました。就任後も、若輩の者を育ててくださるという姿勢で、会議の部分で、まだ話の見えないようなことも会議が終わってから、その経緯を教えてください、本当にきめ細やかに接してくださり、そういった姿勢が奥水先生の教員生活でも児童に向けられる眼差し、それから他の教職員の方に対する態度というところに現れていらっしゃるのかなということ垣間見たというところです。

今後も、また御指導いただきたいこともたくさんございますので、引き続きましてよろしくお願いたします。

安間教育長 奥水委員は平成27年4月から約1年9カ月にわたりまして教育委員を務められまして、八王子市の教育の発展に御尽力をいただきました。今回、個人的にも本当に残念なのでございますが、こうとも考えられるなど。遠慮がちに奥水先生はおっしゃいましたけれども、奥水かおりの名は全国国語教育の第一人者として鳴り響いておりまして、そういう方に2年近く、八王子市の子どもたちが指導していただいた、そして我々も導いていただいたのだ。これは我々自身も誇りを持っていいのではないかと、さらには八王子市民としてお住まいですから、これからはきっと八王子のことを目にかけていただければしょうから、奥水先生が遠く国のほうから発信した国語教育の状況を我々も受けとめると同時に、よくわからなければ近くにいるのだから聞いてしまえと、そんなような存在でいてくれるものというふうには思えば、これもいいことなのだろうと感じた次第です。

個人的には、私が教育行政駆け出しの新米のころから、安間君とかわいがついてい

ただきまして、都庁の中ではつらくて屈伸をしておりましたら、体育は大事よというふうに声掛けていただいて、覚えていらっしゃるでしょうか。私はいまだに、そんな温かい言葉をかけていただいたことを思い出します。

今回、私4月に着任したときに輿水先生がいるので安心だったのですが、いわゆる着任から半年ぐらいのハネムーン期間というのは終わったのだと、和田先生と輿水先生という二人の大先輩がいなくなって心細く感じておりますが、ここから私自身もしっかり頑張っていかないと、輿水先生から怒られてしまうなど、そんなふうに個人的には考えている次第でございます。

輿水委員のこれまでの御貢献に対して感謝の気持ちを込めまして、改めて皆さんで拍手を送りたいと思います。どうもありがとうございました。

それでは、公開の審議は終わります。

なお、休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退席をお願いいたします。

再開は50分にさせていただきます。

〔午前10時40分休憩〕